

平成30年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	22人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 31 年 2 月 25 日 ( 月 ) 15:00 ~ 16:35				
主 テ ー マ	<p>1 精神障がい者の地域移行・地域定着を進めるために</p> <p>2 日頃の支援での困りごとについての意見交換</p> <p>3 その他</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>(1) 部会テーマ「見える化」についての説明(きらりあ 春日)</p> <p>(2) 精神障がい者の体験に関わる制度について(きらりあ 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のア～エの4つの制度がある。このうち、退院支援に使えるのは、ア～ウの3つである。</li> <li>ア 自立生活体験事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村独自事業(市町村により、他のサービスができたため廃止した所もある)。施設等への宿泊体験等を行う。利用限度日数等市町村で異なる。</li> </ul> </li> <li>イ 共同生活援助体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム入居検討時、実際生活可能か確認するため、一定期間体験が行える事業。計画届出必須。</li> </ul> </li> <li>ウ 地域移行支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期に入所施設で生活していた人や、精神科病院に入院していた方、刑務所などを出所する障がいのある人が、退所・退院するにあたり、住居確保や必要な福祉サービスを調整する事業。入院中唯一使える。</li> <li>・計画届出必須。支援提供期間は、原則6か月で、月2回以上の直接支援を行う。加算体制もある。</li> </ul> </li> <li>エ 地域定着支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし等の障がいのある方に対し、常に連絡がとれる体制を確保し、不安やトラブルが起きた時に、電話対応や緊急訪問ができる相談サービス。計画届出必須。</li> <li>・ウとエを担う指定一般相談支援事業所で、実際に稼働している事業所が圏域内に少ないのが、現状である。</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) 意見交換(参加者全員)</p> <p>ア 医療の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院外訪問者があり、入院者の体調変化があると、医療機関としては、何が起きたのかよく分からない。</li> <li>・地域移行支援の結果、どうなっていくかが分からない。医療機関側の思いもなかなかうまく伝えられない。</li> <li>・相談できる人が地域のどこにいるのか、地域の社会資源がどこにどのような状態であって、どう使えるか見えない。</li> <li>・表面的には、退院拒否、症状悪化となる方でも、その理由は、退院への不安であることが多い。</li> </ul> <p>イ 福祉の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活を体験することで、地域の生活者としての視点を医療関係者と共有したいが、難しい面もある。</li> <li>・地域移行の必要性は数字等で分かるが、入院者のニーズが見えない。ニーズ把握調査も必要ではないか。</li> <li>・以前に比べると、地域の社会資源は整備されてきたと感じる。さらなる連携が大切になると思う。</li> </ul> <p>ウ 行政の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所では、措置入院等、急性期の方の関わりが主。対応に追われ、連携まで思いが至らないこともある。</li> <li>・行政も巻き込んでもらい、一緒に考えていけたらと思っている。</li> </ul> <p>エ 当事者の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院経験がないと当事者でも入院病棟がどうなっているのか分からない。閉鎖病棟を訪問してビックリした。</li> <li>・病院は生活の場ではない。仲間として何とかしたい思いはある。長期入院後、お葬式もひっそりと行われるような実態を知り、とても悲しい思いを抱いたこともある。</li> </ul> <p>2 について(参加者全員)</p> <p>(1) 長期入院の方の退院相談へどう対応したらよいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関としては、何とかしなくてはとの思いで、事業所に個別協力をお願いするケースも多々あると思う。</li> <li>・長期入院者は今後減少し、ベースに知的や発達障がいがあり、パーソナリティに課題のある方の支援ニーズが増えると思われ、地域住民も含め、理解が得られにくい方々で病棟も抱え込みで疲弊する傾向がある。医療も地域のことを知り、地域の側からも医療機関への情報提供が欲しい。お互いの連携が大切。</li> <li>・家庭・職場(学校)以外の「第3の居場所」をもっと地域の中に作ることで、地域生活の場を広げることも大切。</li> </ul> <p>(2) 自立生活援助とはどのような事業で、地域定着支援との違いは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域定着支援は、緊急時の困りごとへの対応等、24時間の安心・安全確保がメイン。自立生活援助は、緊急ではないが、日常生活上のさまざまな困りごとへの対応をするもの。従来、相談支援専門員がカバーしてきた部分を事業化したもの。有期1年のサービスで、地域定着支援との併用は不可。ただし、切替は可能。</li> <li>・新事業であり、研修を受講したり、実際に活動している他圏域の事業所に動きを確認したりする方法もある。</li> </ul> <p>3 について(事務局より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H31.2.26(火) 13:30～ 相談支援専門員連絡会で当事者発表がある。ぜひ多くの方に聴講いただきたい。</li> <li>・4/2の世界自閉症啓発デーのチラシを配布した。ぜひご覧ください。</li> </ul>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行・地域定着推進のために、お互いの立場を知り、よりよい連携をしていくための意見交換ができた。</li> <li>・課題として出された困りごと2点について、皆で考え、解決の方向性やヒントを共有することができた。</li> </ul>					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回が今年度の最終部会となります。1年間、ありがとうございました。</li> <li>・来年度も大勢の皆様のご参加、よろしくお祈いします。</li> </ul>					